

●自然体験①

12 つくる責任
つかう責任15 陸の豊かさも
守ろう

薪割り体験

(動画あり)

概要

なたを使って、割り方を学び、火を起こすときに役立てましょう

※応用として、自然体験②木こりの薪づくり体験を参照

人数

・何名でも

対象

・3年生～

実施期間

・通年

所要時間

・事前：1時間
・当日：1時間～



活動場所

・屋外：くわの実広場 ・屋内：多目的ホール、ホワイエ、研修室（スズラン、ユキザサ など）

指導のねらい

- ・相互に薪割りの方法を教え合うことで、主体的で対話的な学びを促す
- ・「できた」という経験や自信から、自己肯定感の向上を促す

活動のながれおよび留意点

【事前学習】

- ① 薪割りの方法や留意点について調べる
※（別紙）薪の割り方シート、動画、インターネットを活用
- ② 調べた情報はプリントアウトしたり、ノートにまとめて整理する

【当日】

- ① グループに分かれ、薪割りについてまとめた情報をもとに、方法や留意点を確認し合う
- ② 道具を準備する
- ③ けがに注意しながら実際に薪を割る
※割った薪をキャンプファイヤーや焚火に使う場合は、リリアカーにまとめておく
- ④ 全員、薪を割ることができたら、どんなところが難しかったのか、うまくできたか等、体験して感じたことを共有する

準備物品

【山の家で貸出可能なもの】

・薪（1束：350円、約10人で1束）、なた、薪割り台

【団体で準備するもの】

・軍手

備考

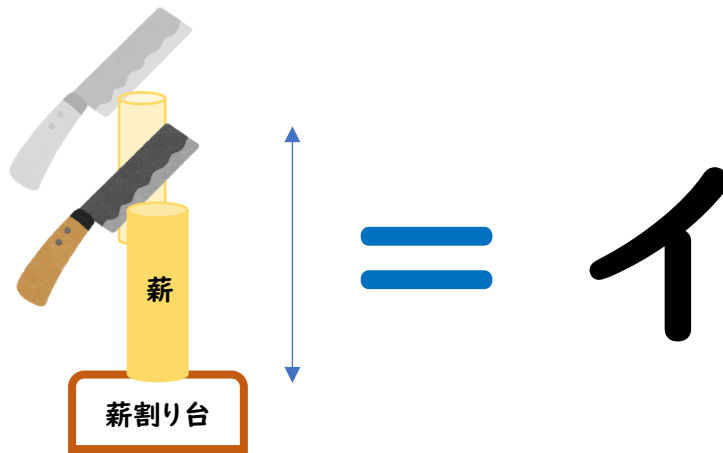
薪の割り方シート

- ① 利き手(なたを持つ手)は素手で、反対の手(薪を持つ手)に軍手を2枚重ねてはめます。
【ポイント】素手にすることで、なたを持つ手がすべりにくなります。なたが薪を持つ手にあたってしまった場合でも、軍手を2枚重ねにすることにより少しでも怪我を減らすことができます。

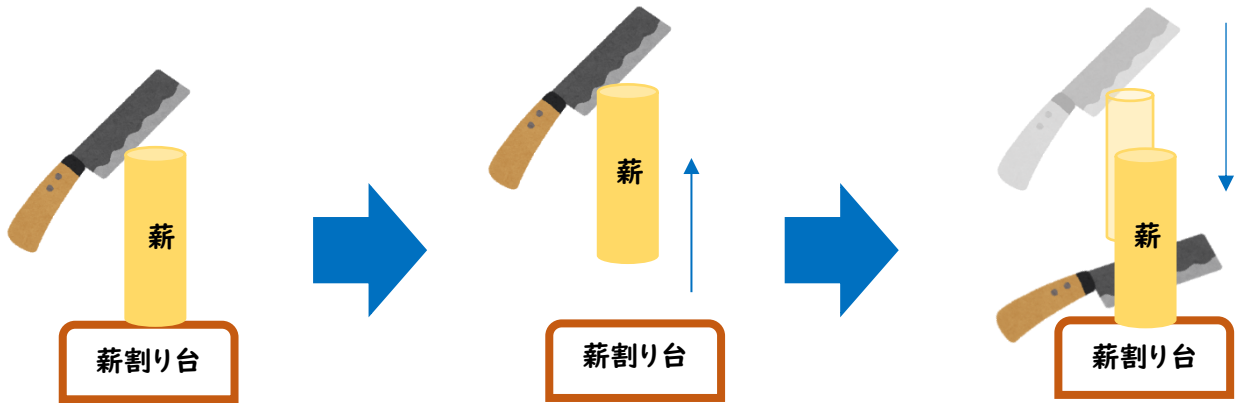
- ① 利き手でなたを持ち、反対側の片ひざをついて安定した姿勢をとります。

- ② もう片方の手で薪を持ち、刃の手元側を薪断面の長辺に傾けて当て、薪割り台に数回打ち付けながら、なたの刃をくいこませます。

【ポイント】なたの刃に薪が食いこむと、カタカナの「イ」のような形になります。
山の家ではそれを、「イイ(良い)形」とよんでいます。



- ③ 刃が薪に食いこんだら、両手でなたを持ち、なたの重さを利用して、薪割り台に打ちつけるように薪を割ります。



【！ 注意 ！】節のあるマキは、割れにくいです。無理をせずに割れやすそうな薪を割りましょう。
頭より上に、なたをふりかぶらないようにしましょう。
隣の人に近づきすぎず、間隔をあけて薪割りをしましょう。

- ④ なたを置いて、その場から離れるときや、順番を交代するときは、下の図のとおり、薪割り台の下になたの刃をかくしておきましょう。

